



「佐々木さんを支援する会」会報

ウブムエ

事務局 〒235-0041 横浜市磯子区栗木 1-22-3 / TEL 045-774-9861
洋光台キリスト教会内（蛭川明男牧師）／●世話人会代表 加藤 誠
●事務局長 播磨 聡（広島キリスト教会 TEL 082-293-8683）

ニャルワンダ語で「ウブムエ」(ubumwe)とは、「一致」「調和」「和」を意味する。

「ルワンダと日本の架け橋として」

佐々木 和之

さ さ き か ず ゆ き

皆さま、いつもルワンダの活動のためにお祈りとご支援をありがとうございます。私が働くプロテスタント人文社会科学大学（PIASS）の今年度の授業が先週終了し、今、レポートの採点で忙しくしています。

★ いよいよ PIASS の学生たちが日本へ留学！

前号でもお伝えしましたが、PIASSの平和・紛争研究学科の2名の学生が、9月末から約1年間、東京外国語大学に留学することが決まりました！東京外国語大学「現代アフリカ地域研究センター」が航空運賃と生活費の追加分を確保するために実施して下さったクラウドファンディングが5月末に終了し、当初の目標額を大幅に上回る1,703,000円が集まりました。クラウドファンディング運営会社への手数料を引いた1,413,490円の半分を今年度の留学生2名のため、残りの半分を来年度の留学生2名のために用いられることになりました。ルワンダと日本の学生たちの間で双方向の交流が実現することになったことを、とても嬉しく思います。シュクルさんはルワンダ人、ロドリグさんはブルンジ人です。二人とも成績が抜群に良いだけでなく、リーダーシップと思いやりのある好青年です。彼らが日本で豊かな留学生活を送ることができるように、皆さまの応援とお祈りをよろしく願いたします。



＜ロドリグさん（左）とシュクルさん（右）＞

★ 新プロジェクトが本格的に始動

4月に始動した「ニャンザの光」平和と生活向上プロジェクトにより、女性たちの念願だった手工芸品の製作と販売を行なう工房が、6月初旬にオープンしました。また、女性たちの製作活動が今後より豊かなものになるように、足踏み式のミシンを8台購入し、工房に設置しました。このプロジェクトに参加する女性たちの様子については、以下に佐々木恵から詳しく報告させていただきます。

秋の帰国報告でお会いするまで、皆さまお元気で過ごしてください。

女性たちが灯す希望の光

佐々木 恵

さ さ き め ぐ み

皆さま、大変ご無沙汰しています。今回は、この一年私が一緒に活動してきた「ウムチョ・ニャンザ」のことを報告できることを嬉しく思います。

さて、ウムチョ・ニャンザというのは、「和解と共生」そして「生活向上」を目的として活動する14人からなる女性グループです。ジェノサイドの被害者と、加害者を家族に持つ女性たちで構成されています。ウムチョ・ニャンザという名前は日本語では「ニャンザの光」という意味になるのでしょうか。この女性たちが活動を通じて、ニャンザで輝く希望の光となれるようにという願いを込めてつけられたのです。これまで私は、和之に同行する形でこの女性たちの活動に参加してはいたのですが、去年8月から、ブックカバー作りを通して毎週このウムチョ・ニャンザの女性たちと関わるようになり感謝しています。すでに女性たちの作ったブックカバーは去年秋、日本帰国時に販売したのですが、持ち帰った130枚あまりは完売し、加えて今年5月の帰国時には、63枚を完売しています。

毎週水曜日、午後1時から3時までの2時間が私たちの活動です。はじめての会合は去年8月30日。翌週から早速ブックカバー作りをはじめました。文庫本サイズ用のブックカバーは、紙製のショッピングバックを解体して台紙にし、アフリカの布地をスティックグルーで貼り付けて作ります。あとはそれにゴムバンドとしおりを付けて完成。ところが女性たちの仕事を見ての第一印象は、「定規を使って線を真っ直ぐ引けない！ハサミを上手に使えない！線に沿って切れない！」という全くネガティブなものでした。日本で販売するのが最初の目的ですから、いい



加減なものはありません。それでも、女性たちの「作品を作りたい！」という意欲に支えられての活動のスタートでした。9月21日の日本出発までの3回でどうにか出来上がった12枚を携えて帰国、販売しました。11月4日の和之の日本出発まで、水曜日はあと6回。「きちんとした作品をどれだけ仕上げられるか？」が私たちの大きな課題でした。

さて、ここで言及したいのが、日本人留学生の存在です。毎年、4～5人ほどの日本人留学生を和之が働く大学 PIASS に迎えているのですが、この留学生たちがボランティアでブックカバー作りの活動に協力してくれています。商品開発から制作まで、一緒に試行錯誤しつつ女性たちと関わってくれているのです。私が日本に発った日から和之がルワンダを出国するまでの6回の水曜は、この留学生たちに指導と作品管理をお願いしました。彼女たちの協力のもと、和之が出国する折には119枚を持ち帰り販売することができたのです。発色鮮やかなアフリカの布地で出来たブックカバーはとても好評で「聖書サイズのも欲しい！」との要望を頂くこともできました。しかし中には、「しおりがすぐ取れた」「布が台紙から剥がれた」等の苦情も後

日あり、ルワンダに帰って女性たちに報告！ 今年の作品は、万全の注意を払って作成しましたが、皆様のご指導をいただきつつ、これからも作品の品質管理にも務めたいと思っています。

ところで、ウムチョ・ニャンザの女性たちの技術の方ですが、この一年で目を見張る進歩を遂げました。難題の台紙と布地のカットは、縫製技術のあるイマキューレーさんが一手に引き受けてくださり、残りの作業をメンバーみんなですんでいます。今では、ほとんど私たちの指導やチェックがなくてもきれいな作品を作れるようになりました。彼女たちなりの出来上がりの目安もあり、こちらが出来上がりと思っても、「いやいや、もっと、ここをこうしなくては！」と、作品に対する厳しい目も持てるようになりました。布選びに関しても、最初日本の販売を考慮して私が選んでいたのですが、今年からはメンバー自身で選んでいます。

また、ブックカバーに加えて今年からはアクセサリー作りもはじめました。お花畑プロジェクトで収穫した貝殻草の花をドライフラワーにして、ヘアクリップやイヤリング、ピアスを作っています。はじめての製作の時には、繊細な壊れやすいドライフラワーと、扱いにくい瞬間接着剤を使った作品が、女性たちにうまく作れるだろうかヒヤヒヤしながら始めました。ところが女性たちはやはりアクセサリーとあってか、制作意欲満々で、あっという間に手際よく仕上げてくれたのには本当に驚きました。5月に一時帰国した際には早速、教会の集会やバザーでの販売を試みました。ところが、こちらの方の売れ行きは今ひとつ……「可愛いけど、壊れやすそう。」という反応や、イヤリングではなくピアスに作ったので、「耳に穴がないから…」という理由が多いようでした。また、購入後、花びらがとれるという問題もありましたが、購入してくださった方ご自身から丁寧なアドバイ



スをいただき、目下品質向上に向けて改良中です。秋の帰国時には、ピアスやバネ式クリップタイプのイヤリング、ヘアクリップなど、数は少ないですが、販売予定です。ぜひ、機会のある方は、手にとってご覧いただけたらと思います。

今年5月、ウムチョ・ニャンザは、支援会からの予算で8台のミシンを購入しています。いま、前述のイマキューレーさんの指導のもと、ミシンの縫い方の練習をしているところです。先週は、グレースさんが端切れで縫った小袋をいくつも取り出しては見せてくれ、今週はエスペランセさんとリーダーのアルフォンシンさんに、作った手提げ袋を手に写真を撮ってくれるように頼まれました。いずれはこちらの活動の商品開発や技術指導にも関わりたいと思っています。

これからの目標としては、ウムチョ・ニャンザを協同組合として登録するための手続きを始めること、それにともなって、ルワンダ国内での販売の計画を推進していくことです。また、女性たち自身でブックカバーの出来上がりのチェックをしあい、品質管理ができるように引き継ぎをしていくことです。既に3回程、体験学習（参加費・一人5千フラン＝約700円）としてお客様をお迎えしており、メンバーが作り方を指導できるほどになっていますので、こちらは問題ないと思います。また、そのあとは、材料や道具の購入管理も譲渡しなければと考えて

います。これまでの販売で、女性たちは既に純収入として日本円で13万1487円程を得ており、その収入でメンバー全員、家族5人分にあたる国民健康保険一年分を受け取っています。残金の一部でウムチョ・ニャンザのために作業台一つと椅子7脚を購入し、残りは活動費として貯蓄しています。この支援活動の責任者は、PIASSの卒業生で今は和之の同僚のムブニ・セルジさんです。

ところで、1時からの活動になかなか時間通りには集まらないアフリカタイムに、一年もするとすっかり慣れてしまう留学生たちですが、この活動を通して、女性メンバーとの関係も深まっていることも感謝です。メンバーの一人ローズさんは、いつも優しく声をかけてくれる留

学生の航平君が大好きで、「コウヘイ ヌムワナ ワンジェ＝航平は、私の息子」と言っています。航平君のお陰で、確かに彼女の笑顔が増えました。また、赤ちゃんを産んだばかりのアルフォンシンさんが活動に集中している間、赤ちゃんの面倒を留学生が見る姿も微笑ましいです。私と女性たちとの交わりは始まったばかりですが、これからも留学生たちの協力をいただきながら、また、日本にいる皆様には支援という形をとおして協力していただきながら、女性たちと共に活動を続けたいと願っています。最後になりますが、私たちの作業は、参加者全員で手を繋ぎお祈りをもって終えています。この文章も、ルワンダから皆さんの元へ希望の光が届きますようにとの祈りを込めて終えたいと思います。

事務局からのお知らせ

- 今年の佐々木和之さんの帰国は、10月下旬から11月下旬にかけて約一カ月を予定しています。

● 佐々木さんのルワンダでの活動は13年を超え、加害者と被害者の和解の取り組みに加え、非暴力・草の根で平和と和解を構想できる若者たちを育てる働きを中心に据えています。佐々木さんの活動が続けられるため、支援会にご友人をお誘いください。ご紹介いただいた方には、趣意書、申し込み葉書をお送りします。

● PIASS 平和紛争研究学科学生 2 名、東京外国語大学に留学！

東京外国語大学（現代アフリカ地域研究センター）は、ルワンダの若者に日本で学ぶ機会を提供する趣旨で、クラウドファンディングにより渡航費などの支援を一般の方に仰ぎました。クラウドファンディングには、当初の目標を超える1,703,000円のご支援をいただき、PIASSから2名の留学が実現することになりました（<https://readyfor.jp/projects/asc-piass/>）。支援する会の皆様のご協力感谢您いたします。

● 佐々木さんを支援する会主催「第3回 ルワンダ 和解の現場・訪問ツアー」

現在の予定では、2019年9月2日（月）～12日（木）に訪問ツアーをおこないます。虐殺の現場を訪ね、その悲劇を心に刻みつつ、佐々木さんの活動現場を訪問します。ぜひ、今からご検討ください。お知り合いの方々を、お誘いください。詳細は、10月発行予定の次号ウブムエで紹介いたします。

●事務作業簡素化のため「振替用紙」を同封しています。請求ではありませんのでご了承ください。

●郵便振替口座 00250-0-112907 佐々木さんを支援する会●

●佐々木さんを支援する会HP（ホームページ） <http://rwanda-wakai.net/>

佐々木さんの活動報告、写真館、等。HPから入会手続きも可能。佐々木和之さん、恵さんのブログも適時更新。

●世話人会 加藤 誠（大井教会牧師）、中條智子（長住教会牧師）、播磨 聡（広島教会牧師）、蛭川明男（洋光台教会牧師）、米本裕見子（日本バプテスト女性連合幹事）